

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392600124		
法人名	医療法人信愛会		
事業所名	グループホーム秋桜の里 (いちごユニット)		
所在地	愛知県豊川市三蔵子町25番地1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392600124-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392600124-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
聞き取り調査日	令和4年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと、個人を尊重し、これまでの生活環境や価値観を大切に、出来る活動に着目、残存能力を活かして役割を持って生活していただくよう支援を行っています。コロナ禍の中、クリニックの訪問診療や往診、訪問看護との24時間の連携により、健康面で安心して暮らしていただけるよう努めています。この1年間も新型コロナウイルス感染症の流行により本来の家族・地域との交流は困難でしたが、感染対策に気を配りながら、近隣散歩やリモート面会・窓越し面会を実施してきました。また、ホーム内でも楽しんで頂ける様、自由献立時テイクアウトの活用等により少しでも外出に代わっての楽しみづくりに努めています。また、ご本人のトイレで排泄・食べたいものを食べたいという思いに寄り添う看取りを行いました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の朝礼にて、参加者全員で理念を読み上げ実践に繋げている。また、事務所に掲示しいつでも共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属。回覧は回るが、コロナ禍で、外出自粛もあり、交流はほとんどできていない。散歩やゴミ出し時などに挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で情報交換等が難しくもあるが、機会があれば講習会等に出かけてグループホームの活動等について説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で実際の開催は1回のみ。今年度は11月が初めての開催となる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊川市事業所連絡協議会に属し、リモート等により担当者会・部会等に参加し情報交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠せず、センサーチャイム等で離設に備えている。夜間は入居者の安全を考慮し、歩行不安定の入居者には足元センサーや床対応にて対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが意識している。ユマニチュードについても学んでいる。更衣・入浴時等にボディチェックし、虐待が見過ごされないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる入居者がいないため、管理者以外の職員全体では聞いたことはあるが活用までには至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や介護保険改定時には重要事項説明書を用いて説明し同意を得ている。職員も利用者や家族の質問に対応出来るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。意見や要望があった場合は職員間で共有し、話し合いを行い向上できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで直接職員より意見を聞いている。また、日常都度や個人面談を行い不満や要望・提案などを聞き働きやすい環境を整えるよう努めている。法人で職員満足度調査を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談・自己評価を踏まえ、2者による適切な評価を心掛けている。年1回の昇給がある。今年度はコロナ対応を労い、賞与以外に常勤5万・パート1～3万の支給があった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体研修はコロナ禍のため実施できていないが、新人研修・レベル別研修・中堅研修・救命講習会等を開催、力量にみあい参加。実践者研修等の外部研修にも参加機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊川市事業所連絡協議会・グループホーム連絡協議会に属し、リモート等により情報交換や研修会に参加できる仕組みがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	使い慣れた物を持ち込んだり、家族からの聞き取りや本人との日々のコミュニケーションを通じて情報収集し、本人の思いに寄り添った支援が出来るよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取り、入居後は担当職員を中心に報告・連絡・相談をこまめに行うようにしている。月半ばにホームの生活の様子を手紙で報告、月末には次月予定表の裏面にホームでの生活写真を載せ状況を把握し安心してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を踏まえ、他の介護施設の説明や問い合わせ、ケアマネへの連絡等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事づくり、配膳、片付け、洗濯、掃除、ゴミ捨て等の家事を一緒に行い、共に生活する者同士の関係を築いている。できる事に着目し、行ってもらうよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にあり、面会制限しているがリモートや窓越し面会を実施し、耳が遠い入居者にはその場で電話でつながる等本人との関係が途切れないう働きかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	以前は買い物や外出、お墓参り等行っていたが、現在はコロナ禍にあり実践できていないのが現状である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り会話をを行う。食事の席やレク等でも一人ひとりの性格や入居者同士の関係性など考慮して、孤立しないような工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も退居先施設での様子を聞いたりしている。居室引き払いに関しても家族の意向をできるだけ反映し、必要書類等の要望にも応え相談しやすい雰囲気づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の訴えや話を傾聴する、または家族や日頃の様子から意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族・サービス事業者・ケアマネ等より情報を収集し、基本情報を作成、皆で共有、入居後も本人・家族から新たな情報を収集し、馴染みのある生活環境を作れるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本情報・アセスメント等により把握。入居後は朝夕申し送りを行い状態の確認を行っている。変化ある時は情報を共有し、経過をみていくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントを行う。本人・家族にも意向を確認し、カンファレンスを行い計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき、ケアについて生活記録に記入し、申し送りを行い情報を共有している。フローミーティングで計画の継続や変更について話しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り希望に沿えるよう検討し対応しているが、コロナ禍において制限を受ける事も多い。訪問理容を取り入れたリリモート面会の開設等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前後に個々の暮らしの支えとなっているものの情報収集は行っているが、コロナ禍において殆ど支援が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医について意向を確認している。協力医療機関のクリニック・歯科は訪問診療・往診の体制もある。専門医は家族の送迎で受診されている。いずれも診療内容の把握に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと提携しており、週1回の健康チェック・相談の他、24時間の連携体制がある。ネットワークにて情報の共有を行い、都度必要な医療・看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはサマリーにて生活の様子も含めた情報を伝えている。病院関係者に治療計画やリハビリの計画、回復の状況等を聞き取り、退院の目途等についても話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状を主治医に伝え、主治医より家族に話し、本人の意向を踏まえた上で治療や看取り等の希望を確認していく。方向性が決まった時点で本人・家族の意向を踏まえ介護計画を作成し関係者と情報共有を図りながらケアを行っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習受講の機会がある。今年度は新型コロナウイルス感染症に対し減圧ブースの設置方法や発熱の際の物品・使用・処理等について研修・訓練行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定はまだ行っていないが、日中の避難誘導訓練を実施した。2F職員との連携、また隣接する特養との合同避難訓練の予定がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードについて学び、ポスター掲示も行っている。視線を合わせ、穏やかな口調で話しかける事を目標に行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いや希望を聞く機会を大切にしている。選択してできる様な声かけや、耳の遠い方には、筆談で対応し、自己決定していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心ではなく、朝ゆっくりしたい方には延食対応、日中も自由に居室で過ごすなど本人のペースに合わせて生活してもらえよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や整髪等行ってもらっている。洋服も好みの衣類をご家族にお願いし用意したり、ホーム側で購入したりしている。ヘアカラーを希望の場合はホームで染めることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食入居者と食事づくりや配膳、片づけを行っている。毎週水・木曜日の昼食は、入居者の希望を聞きながら、季節のメニューを考えたり旬の物を取り入れた自由献立となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を把握。少ない方は補助食品を取り入れたりしている。お茶の時間も飽きないような飲み物を用意し選択して貰う事も。状態により、トロミ・お粥・刻み・ミキサーで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。一人ひとりの状態に合わせて、声掛けや、介助を行っている。ガーゼやスポンジ・液体歯磨き等個々に応じてケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	しぐさや行動も含め、排泄パターンを把握し誘導を行っている。出来るだけトイレで排泄出来るよう二人介助で行う事もある。パットや紙パンツ・オムツの種類や車椅子の位置等個々に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分摂取の状況を把握し、食べ物や散歩等で便秘にならない様な支援を心掛けている。一人ひとりの排泄パターンを把握し、医師に相談し下剤で調整を行うこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けを行い、気が乗らない時は無理強いはいしない。曜日希望のある方、夕方希望の方等は希望に沿うよう個々に対応している。入浴が気持ち良い事であるよう、楽しい雰囲気作りにも気を配っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や習慣に応じて日中横になる時間を作っている方もいる。好きな時簡に入床するが、眠れない時はフローアで過ごすこともある。本人にあった寝具や居室の温度、湿度にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は薬情をファイリングし、いつでも確認が出来るようにしている。薬の変更時は申し送りを行い周知し、副作用等の変化が無いか注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、日頃の生活の中で本人の出来る事好きな事等を把握する。例えばメニューを書く、本を読む、散歩に出る等楽しみや達成感が持てるよう支援している。嗜好品は自由献立やお茶やおやつ時間に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により外出は出来ていない。近隣の散歩や時々のドライブ等で季節を感じてもらえるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を持っている方はいるが、ほとんどのの方が管理が難しく、預り金という形で事務所で預かり、必要に応じて使用する事が出来る。がコロナ禍の為、買い物等には出かけておらず使用の機会がないのが実情である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日家族とテレビ電話をしている方もいる。希望があれば電話を繋ぐ。毎月生活の様子を知らせているので、本人からの手紙を添える事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレなど分かり易く工夫して掲示している。ゆっくり過ごせるように廊下端とフロアーにソファを設置している。壁には季節感ある飾り付けをし、楽しそうな行事の写真も掲示してある。空気清浄機や加湿器を設置、室温や湿度にも気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファや庭のベンチで日向ぼっこをしたり、利用者同士でテーブルを囲んで会話したり、テレビの楽しめる席を用意したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を使用できる。、家族の写真、テレビの持ち込み等で本人が楽しめるよう、またベッド位置なども検討し、使いやすい・過ごしやすい居室づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・洗面所・浴室等に手すりを設置、表示もしている。動線には障害物を置かないようにしている。居室のタンス等も整理し、貼り紙をし服の場所など分かり易くしている。家具やベッドも本人の状態に応じて配置している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392600124		
法人名	医療法人信愛会		
事業所名	グループホーム秋桜の里 (かきユニット)		
所在地	愛知県豊川市三蔵子町25番地1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392600124-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392600124-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
聞き取り調査日	令和4年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境のもと、個人を尊重し、これまでの生活環境や価値観を大切に、出来る活動に着目、残存能力を活かして役割を持って生活していただくよう支援を行っています。コロナ禍の中、クリニックの訪問診療や往診、訪問看護との24時間の連携により、健康面で安心して暮らしていただけるよう努めています。この1年間も新型コロナウイルス感染症の流行により本来の家族・地域との交流は困難でしたが、感染対策に気を配りながら、近隣散歩や窓越し面会を実施してきました。新型コロナウイルス感染症の予防の為、消毒の徹底、清掃、機器類の清潔管理等にも力を入れてきました。また、ホーム内でも楽しんで頂ける様、自由献立時テイクアウトの活用等により少しでも外出に代わっての楽しみづくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の朝礼にて、参加者全員で理念を読み上げ実践に繋げている。また、事務所に掲示しいつでも共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属。回覧は回るが、コロナ禍で、外出自粛もあり、交流はほとんどできていない。散歩やゴミ出し時などに挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で情報交換等が難しくもあるが、機会があれば講習会等に出かけてグループホームの活動等について説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で実際の開催は1回のみ。今年度は11月が初めての開催となる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊川市事業所連絡協議会に属し、リモート等により担当者会・部会等に参加し情報交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中出来る限り施錠せず、センサーチャイム等で離設に備えている。夜間は歩行不安定の入居者には足元センサーや床マット・カーペット等で対応し身体拘束とならない方法を考えている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解している。ユマニチュードについても学んでいるが、更に学び考える機会が欲しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者はいが、比較的協力的な為、制度についてできる事できない事まで管理者・主任以外の職員が知っていないのが現状。今後は制度について学ぶ機会を作っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や介護保険改定時には重要事項説明書を用いて説明し同意を得ている。職員も利用者や家族の質問に対応出来るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族の出席あり。玄関に意見箱を設置。意見や要望があった場合は職員間で共有し、話し合いを行い向上できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで直接職員より意見を聞いている。また、日常都度や個人面談を行い不満や要望・提案などを聞き働きやすい環境を整えるよう努めている。法人で職員満足度調査を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談・自己評価を踏まえ、2者による適切な評価を心掛けている。年1回の昇給がある。今年度はコロナ対応を労い、賞与以外に常勤5万・パート1～3万の支給があった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体研修はコロナ禍のため実施できていないが、新人研修・レベル別研修・中堅研修・救命講習会等を開催、力量にみあい参加。介護指導者・介護支援専門員研修等の外部研修にも参加機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊川市事業所連絡協議会・グループホーム連絡協議会に属し、リモート等により情報交換や研修会に参加できる仕組みがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面接を行い、本人からの話を聞き、入居についても思いを聞くようしている。入居後は本人・家族とのコミュニケーションを図り、本人の思いに寄り添いながら安心して生活してもらえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に話を聞く。入居後は報告・連絡・相談を細目に行うようしている。月半ば、ホームの生活の様子を手紙で報告、月末には予定表の裏面にホームでの生活写真を載せ状況を把握し安心してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を踏まえ、他の介護施設の説明や問い合わせ、ケアマネへの連絡等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の訴えに寄り添い、制止をしたり、上からの言葉にならないように、相手の立場に立って考えていくようしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にあり、面会制限しているが窓越し面会を実施し、耳が遠い入居者にはその場で電話でつながる等本人との関係が途切れないよう働きかけをしている。医療面でも家族の意向を確認し主治医に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	把握できていないこともあるため、情報収集に努めたい。コロナ禍で制限も多い。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないように仲介に入ったり、中に入って会話を進め、関わりあえるようしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても退居先の様子を聞いたりしている。相談があれば応じる体制でいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時、散歩時など1対1になれる時間に会話し傾聴し、本人と関わるようにしている。重度化により表出が難しい入居者もいるが、日常の様子から把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族・サービス事業者・ケアマネ等より情報を収集し、基本情報を作成、カルテに残し共有している。入居後も本人・家族から新たな情報を収集し、馴染みのある生活環境を作れるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居に際しては基本情報で把握。入居後は朝夕申し送りを行情報の共有を図っている。疲れていれば休息、元気なら散歩等日々の状態に合わせて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントを行う。本人・家族にも意向を確認し、カンファレンスを行い計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録に記入し、申し送りを行情報を共有している。フロアーミーティング・カンファレンスを行い、計画の継続や変更について話しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に沿えるよう検討しているが、コロナ禍において制限を受ける事も多い。訪問理容を取り入れたり、職員がカットを行ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、受診も出来る限り控えてもらう等外出に制限あり、地域資源が殆ど利用できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時かかりつけ医について意向を確認している。協力医療機関のクリニックは訪問診療・往診の体制がある。専門医はコロナ禍の為必要最低限ではあるが、家族の送迎で受診されている。いずれも診療内容の把握に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと提携しており、週1回の健康チェック・相談の他、24時間の連携体制がある。ネットワークにて情報の共有を行い、都度必要な医療・看護が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはサマリーにて生活の様子も含めた情報を伝えている。病院関係者に治療計画やリハビリの計画、回復の状況等を聞き取り、退院の目途等についても話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状を主治医に伝え、主治医より家族に話し、本人の意向を踏まえた上で治療や看取り等の希望を確認していく。方向性が決まった時点で本人・家族の意向を踏まえ介護計画を作成し関係者と情報共有を図りながらケアを行っていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習受講の機会がある。今年度は新型コロナウイルス感染症に対し減圧ブースの設置方法や発熱の際の物品・使用・処理等について研修・訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定はまだ行っていないが、日中の避難誘導訓練を実施した。2F職員との連携、また隣接する特養との合同避難訓練の予定がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他入居者の行動で怒ってしまった方には傾聴し、理解していただけるような声掛けを行う。排泄の関係は皆の前で大きな声で話さない、上からの言葉かけにならないように等気を配っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るように心がけている。本人の訴えや思いをできるだけ傾聴し、内容の把握に努めている。重度化により察しながら、自己決定をサポートしながらの働きかけが必要となっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿えない事もあるが、散歩希望の入居者には、近隣や敷地内散歩の機会を持ったり、温泉好きな入居者には連日入浴して貰う等希望に沿えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、顔を洗う・拭く、髪を整える、ひげをそるはもちろん、本人の好みをご家族から聞き、好きな色やデザインなどの物を提供したり、洋服を選んでもらったりしている。希望者は髪も染めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には材料を切ってもらったり、配膳してもらったり、食後の片付けをしてもらっている。自由献立を利用し、食べたいメニューと一緒に考える事もある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は記録し把握。ミキサーや刻み・粥等本人の状態に合わせて個別に対応している。水分もトロミ使用やゼリー対応している方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助にて行う方が殆ど。歯ブラシで磨けない方には口腔用シート等を利用しケアをしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	しぐさや行動も含め、排泄パターンを把握し声掛け・誘導を行っている。臥床が多くオムツ対応の方も日中は出来るだけトイレで排泄出来るよう二人介助で行う事もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の特徴をよく理解し、職員同士やDrに相談しながら、出来るだけ薬物を使用せずに排泄パターンが作れるよう検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や状態に合わせて対応をしている。声掛けなどの工夫をし、成功例などを職員で共有している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れても作業に取り組む入居者の方には、顔色やお話の中で観察し、休養を促している。体位変換を行ったり、クッションを使用したり休息の環境にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬情をチェックし、薬の変更等の情報を共有している。服薬が困難な方には、形状や提供の仕方を本人に合わせた支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩の好きな方には散歩を、誕生日が近づくと食べたいものやケーキ、過ごし方の希望等を聞いて取り入れる事をしている。コロナ禍で制限もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にあり、外出は制限あり。車イスやシルバーカー・杖等で近隣散歩に出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元に少額のお金を持っている方はいる。ほとんどの方は管理が難しく、預り金という形で事務所まで預かり、必要に応じて使用する事が出来る。がコロナ禍の為、買い物等には出かけておらず使用の機会がないのが実情である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはしている。家族からの電話に本人が出る事が殆ど。居室でゆっくり電話してもらった場合もある。七夕の願い事等本人が書いた物を家族にお届けする時がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激が多すぎないように気をつけている。日差しが強すぎる時はカーテンやクーラーで温度調節をし、冬場は湿度にも気を付けている。食事のにおいを感じてもらったり季節の花を植えたり、リラックスできるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のつきあたりにソファを設置。くつろぐ入居者もいる。テレビの見える位置や、話し相手になるような席の配置を考えたり、居室での休息の声掛けをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきてもらっている。好むものや写真等の掲示もあり。ベッドの位置や家具の配置を本人にとって安全で使いやすくなるように配置している。転倒に備えマット等も敷いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ・洗面所・浴室等に手すりを設置している。目の不自由な方もいるので、動線には障害物を置かず、席も近くに設定している。状態に応じて、車椅子を使用したり、手引きにて歩行してもらったりしている。		